

# 3年学年だより

古江台中学校 第3学年  
令和5年 9月7日(木) 発行  
No. 8



## さあ2学期 ～さらに絆を深める時～

まだまだ暑い日が続いていますが、2学期がスタートしました。3年生のみなさんは、スタートしてすぐに、実力テストとチャレンジテストが実施され、進路決定に向けて、避けては通れないシーズンの幕開けを実感しているのではないのでしょうか。こればかりは、逃げずに、1日でも早く置かれている立場を受け入れ、正面から本腰入れて取り組んでいくしかないのです。

本腰を入れると書きましたが、2学期がスタートしてから数日、先週は、本当に足を引きずって痛そうにしている3年生を見かけました。「構え!」、そうです。古中ソーランの練習が体育の授業で始まったことが原因のようです。そんな、みんなの様子を見て、いよいよこの季節がやってきたかと感慨深いです。

というのも、今の古中ソーランが始まったのは、44期生が3年生の時でした。今年、成人式を迎え、現在21歳になる代の先輩たちの頃です。今の学年にも、その弟、妹たちが数人いるので、懐かしいです。

当時の古中では、3年生だけグラウンドに段ボールで制作物を作っても良いとされていました。それを2年間見てきて、自分たちが3年生になった時に、今までとは違ったことにチャレンジしたい。クラスが競い合う体育祭で、学年が一つになれることがやりたいと生徒たちと話をし、たどりついた結論が、本気でソーランを踊るということでした。しかし、学校に提案したものの、プログラムにも掲載されず、練習時間も場所も割り当ててもらえない状況での取り組みとなりました。何とか、昼休みに入る直前の5分なら、ソーランを入れてもらってもよいですが……。では、その時に学年が一つになる本気の古中ソーランをやりきろうや。

こうして、まだクーラーのついていなかった学習室にテレビとビデオを設置して、昼休みだけがソーランの練習時間となりました。リーダーたちが一からビデオ映像をたよりに、振り付けを覚え、汗だくの中、猛練習を繰り返しました。普段動かさない運動なのか、足腰フラフラの生徒が続出でした。特に、腰をしっかり落として、キレのある踊りを目指したから、そうなったのでしょう。やるからには、ぶざまなソーランはありえない。

当時は、ムカデ競争が体育祭のメイン競技で、時間があれば、どのクラスもムカデの練習をやっていたので、ソーランの昼練習は貴重でした。ソーランについては、学年有志の参加として、踊りに自信がない人や、それこそ腰が高い人は、しまいには踊りからはずされたりして、踊らないメンバー数人は、ソーランを応援するグッズを制作していました。最終的には、けが人も含めて10名ほどは応援にまわっていましたが、本番はリーダーたちがフォーメーションを考え、学年全員で古中ソーランを創り上げ、演じきりました。

わずか3分間、3年生の魂が一つになった瞬間でした。そして踊りきった3年生は、ただただ感動が溢れて、互いにたたえ合っていました。感動って理屈抜きに溢れてくるもんなんです。見守ってくださっていた保護者や後輩たちからは、割れんばかりの拍手が沸き起こり、当時3年生の担任をしていた私、安藤は同じく担任をしていた大西先生と体育倉庫の中で、涙したことを昨日のこのように覚えています。

なぜ、感動が溢れてきたのか、それは一人ひとりがやれることを精一杯やりきって、全力を出し切れたから、そして学年の仲間と一緒にできた一体感をもてたから。

リーダーたちは人の何倍も時間と努力を惜しまず練習し、どうしたらクラスみんなが頑張れるかを常に考えて行動していたし、そんなリーダーたちの頑張りにしっかり応えようという姿勢が、個々の頑張りを引き出し、一体感を作っていたのだと、そばで見守っていて実感しました。

この学年の絆は、確実に行事を超えるたびに深まる学年だったように思います。

ちなみに、今年の吹田市の成人式が吹田スタジアムで開催されたのですが、スタジアムの外で撮った学年の集合写真が先生らに送られてきました。学年ほぼほぼ全員がそこに勢ぞろいしていました。

「よく、こんな集合写真が撮れたなあ」と尋ねてみると、「久しぶりに中学校時代に戻ったみたいで、それぞれのクラスのリーダー的なメンバーが声を張り上げて、叫んだんです。そしたらみんな声かけあって集まってくれたんです。」・・・長年教師をしています、そんな学年はなかなか聞いたことがない。

初めての古中ソーランの翌年、次の3年生の学年が自分たちもソーランをやりたいと声をあげ、プログラムにも組み込まれ、体育の授業で練習時間が確保され、グラウンド練習が始まり、2年後には衣装まで準備されました。50周年記念式典ではメイシアターで、さらに新調された衣装をつけて、48期生が古中ソーランを立派に披露したのは、君たちも会場で見たいと思います。

こうして、今では体育祭の最後に3年生の雄姿を披露することが伝統となりました。

どんな場面でも、一人ひとりが主人公であるという意識で、自分のやれることを精一杯やること。リーダーとなって、人一倍頑張ってくれている仲間の頑張りに、きちんと応えようとする姿勢をもつこと。これが、学年の絆を育て、深めていきます。

朝の「おはよう運動」は、生活委員に加えて、3年生学級委員が下足箱、渡り廊下付近で挨拶とともに「チャイム鳴るよ!」と声をかけています。スルーしてませんか?人より早く登校して、カギを開けてくれている仲間がいることに気づいていますか?それによってクーラーが早い目に効いて、教室が涼しくなっていることを考えたことがありますか?・・・汗一杯かいて、駆け込んできた教室はしっかり冷えてるよね。

3年生の日ごろの姿勢が1,2年生に影響します。バラバラ遅刻している生徒が多くいる学校は、授業規律もええ加減になり、自分たちにとってマイナスしか生み出しません。

安全で安心して生活できる学校とは、仲間のことを大切にできる学校や学年・クラスです。日ごろの生活、学習発表会・体育祭などの行事、様々な場面も残り少なく限りある時間です。仲間との絆を深めることで、一人ひとりの希望する進路も必ずや拓けていきます。

みんなはどんな学年に仕上げたいんやろう?ここからが正念場です。

